

会計名			森三郎童話賞全国募集事業				担当部	生涯学習部	
一般会計							担当課	中央図書館	
款	項	目					課等長名	渡部 高幸	
10	5	4					作成者	金山 亨	
P A A N	事業概要	第7次総合計画	分野	教育文化 文化・芸術 創作・発表の機会づくり					
		基本的施策 施策の内容							
		目的	戦後の日本を代表する童話作家 森三郎氏を、刈谷市を代表する文化人の一人として称え、次代を担う子供たちに残せる童話を広く全国募集することにより、刈谷からの文化情報の発信及び文化芸術作品の創造を図る。			主たる内容	「森三郎童話賞」として3年に1回全国募集を実施し、入賞作品の表彰を行う。また、最優秀作品は書籍化し、市図書館に貸出、閲覧用として蔵書するとともに市内の小中学校及び全国の公立図書館に寄贈する。		
		対象者	対象者を限定しない						
D O 実 績	事業実績	実施方法	直営	位置づけ	関連計画	刈谷市文化振興基本計画			
		事業期間	H16 ~		根拠法令				
		20年度実績	21年度実績		22年度実績		23年度計画		
		応募作品414点の審査をし、入賞作品の表彰を行った。最優秀作品を書籍化(3,100冊)し、蔵書するとともに市内小中学校及び全国の公立図書館等に寄贈した。	—		募集期間 平成22年11月1日～同年12月31日 ・募集用チラシの作成及び配布 ・雑誌に募集広告掲載 ・ホームページによる募集 応募総数 466点 応募者数 447名		応募作品の審査をし、入賞作品の表彰を行う。最優秀作品を書籍化(3,200冊)し、蔵書するとともに市内小中学校及び全国の公立図書館に寄贈する。		
	成果 (できたこと)	全国募集を行った結果、佐賀県と長崎県を除き日本全国の都道府県からと海外からの応募があり、刈谷からの文化情報の発信及び文化芸術作品の創造が図られた。また、応募の多かった都道府県の上位は、愛知県の66点60名、東京都の63点61名、神奈川県41点、40名の順となっており、1位の愛知県の中でも刈谷市民の方からの応募は、20点19名と最も多く、市民の文化意識の向上が図られた。							
	課題 (できなかったこと)	募集は3年に1回のため、次回実施は平成25年度を予定しているが、さらなる応募作品数の増加を図るため、新たな募集のPR方法の検討が必要である。							
		指標名称	実績値			目標値			
			20年度	21年度	22年度	23年度	25年度		
		応募作品数			466点		500点		
	他市との比較検証	半田市の「新美南吉童話賞」今年度第23回(刈谷市の森三郎童話賞は第3回) 原稿規定は、部門により異なるが原稿用紙7枚以内～3枚以内(刈谷市は25枚～30枚)。最優秀賞 1編 賞金50万円、優秀賞 一般の部 1編 賞金5万円、中学生の部、小学校高学年の部、小学生低学年の部 各1編 賞金3万円(刈谷市は、最優秀賞 1編 賞金50万円、優秀賞 1編 賞金10万円、佳作 4編 賞金3万円)							
C 事業コスト	総事業コスト	20年度(決算)	21年度(決算)	22年度(決算)	23年度(予算)	平成22年度事業費内訳			
		単位：千円		3,092	9,759	11 需用費	132,300 円		
	事業費	6,338		1,642	7,475	12 役務費	1,509,850 円		
	特定財源		0	0	21	合計	1,642,150 円		
	一般財源			1,642	7,454				
	職員人件費			1,450	2,284				
建設事業	全体事業費	0		備考(補助名称等)					
	22年度迄の累積事業費	0							
	24年度以降の事業費見込								

会計名			森三郎童話賞全国募集事業	担当部	生涯学習部
一般会計				担当課	文化振興課
款	項	目		課等長名	渡部 高幸
10	5	4		作成者	金山 亨

CHECK (評価)	各視点からの評価		評価の理由・特記事項	内部評価総括		
	D 内部評価	必要性	高い	全国に向けて刈谷市をアピールするという点で必要性の高い事業である	森三郎氏の功績をたたえ、平成16年、平成19年と2度の童話賞の全国募集を実施したが、今回、文化芸術行政のよりどころとして策定された刈谷市文化振興基本計画においての定期的な開催により、作品の創造の支援をするとともに、刈谷からの文化情報の発信を図るため3度目の募集を実施した。 今後も森氏の功績をたたえ、刈谷から全国そして世界へ文化情報の発信を図り、刈谷市をアピールするとともに市民に対し、地元の童話作家の認知度の向上を図っていく。	
		効率性	普通	作品公募の周知方法において、一層の効率性の向上が求められる		
		妥当性	高い	最優秀作品の寄贈や賞金など、財源的に市の関与が必要である		
		施策への貢献度	普通	文化振興基本計画に基づく事業であり、刈谷からの文化情報の発信を図っている		
E 外部評価	行政評価委員の総括			評価年月日	平成23年8月4日	
	<p>○ 地元の著名人や芸術家を知ることは良い機会であり、良い施策ではあるが、中途半端である。あえて森三郎童話賞を作って全国に応募する必要は低いのではないかと。刈谷市の小・中・高校生などが作品を創作し発表する機会に重点を置いた方がよい。</p> <p>○ 童話作家を全国に知ってもらうことが目的なのか、刈谷が童話のまちとして全国に知られて刈谷の知名度を上げることが目的なのか、両方であればそのウェイトは何割なのか。目的がはっきりしないと、施策展開も評価も違ってくる。</p> <p>○ 事業をどう展開し、どこまでいったら事業が成功になるのかといった指標が必要である。市民にとってはアピールしたことがどう効果になるのかが重要であり、そのことをはっきりさせることが重要である。</p> <p>○ 公費を使って童話作家を有名にすることの意味について論理展開しないと、アカウンタビリティ（説明責任）を果たしたことはない。目的を明確にして、税金の使い方を説明できる論理を作ってほしい。</p> <p>○ 本当にアピールするのなら、図書館として単独で実施するのではなく、文化振興課がリーダーシップをとって、都市計画との連動なども考えなくてはいけない。</p> <p>○ 3年に1回の募集であるが、作品募集はコンスタントに毎年やって、単年度に100点くらい集めていく方法の方が一般的ではないか。3年に1回でアピールになるのか。</p> <p>○ 事業の目的の1つに創作発表の機会をつくることがある。刈谷市民が創作発表の機会が広がったと感じられるのかどうかという視点も加えてほしい。</p>					